

研究区分	教員特別研究推進（地域振興）
------	----------------

研究テーマ	初期近代の金属国際交易ネットワークと静岡——土肥、天正、梅ヶ島の金銀を中心に				
研究組織	代 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	松森 奈津子
	研究協力者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	松森 奈津子

講演題目
初期近代の金属国際交易ネットワークと静岡——土肥、天正、梅ヶ島の金銀を中心に
研究の目的、成果及び今後の展望
初期近代（15c. 末～17c. 半）は、ヨーロッパ諸国の海洋進出により、世界の諸地域が交易を通じて結びつけられ、「世界の一体化」が始まった点で、重要な歴史的転換期であった。よく知られているのは、「陽の沈まぬ」スペイン帝国が中南米からもたらした大量の金銀により、ヨーロッパの社会経済構造の変化とスペインの衰退が引き起こされたというストーリーである。当時の日本も、金・銀・銅・鉛といった鉱物の世界有数の産地かつ輸出元であり、このグローバルな交易ネットワークにおいて重要な位置を占めていた。 本研究の目的は、こうした初期近代の金属国際交易ネットワークにおける日本の位置と意義を、とりわけ本県の代表的な3つの鉱山—伊豆市の土肥と天正、静岡市の梅ヶ島—に焦点をあてて検討することにある。石見や佐渡ほど知られてはいないが、これらの鉱山も幕府直轄領として、一方では金・銀・銭の三貨制度下の日本を支え、他方では銀本位体制に移行していた中国（明）への銀輸出を支えるという重要な役割を担った。 研究遂行過程では、授業内アクティヴ・ラーニングの一環として、各鉱山の史跡・文献調査やその意義をめぐるディスカッションを行い、身近な地域が、教科書で学んだ世界史の一端を担っていることを学生たちとともに確認した。まず、各鉱山について、風土、起源、盛衰過程、現状をまとめ、古来の採掘・加工の流れを追った。ついで、これら静岡の鉱山と、石見や佐渡といった日本の代表的な鉱山との比較考察を行った。最後に、これらの鉱山を初期近代の金属交易ネットワークの中に位置づけ、静岡の特色と意義を明らかにした。 研究成果は、本学院生、学生、教職員のほか、広く一般市民を対象とした公開セミナーを開催し、社会への還元を試みた。こうした学内外の協働作業より、大学と地域社会との接点を提供できたと考ええる。 【研究成果】 科研費・教員特別研究推進費公開セミナー「大交易時代とイベリア経済思想」 第2部 静岡県立大学教員特別研究推進費（区分2）課題終了報告「初期近代の金属国際交易ネットワークと静岡—土肥、天正、梅ヶ島の金銀を中心に—」2025年12月22日（月） 今後の展望としては、本研究課題の成果をもとに、金属にとどまらず、初期近代の国際交易ネットワークにおいて日本と静岡がどのような位置づけにあるかを、学生とともに様々な側面から考察することが見込まれる。